



企画にあたって

赤木 禎治

(岡山大学病院成人先天性心疾患センター センター長)

成人先天性心疾患の患者数が年々増加し、循環器内科の日常診療でも避けて通れない状況となってきました。日本成人先天性心疾患学会により認定された、全国約80カ所の総合修練施設あるいは連携修練施設の確立によって、各地域の成人先天性心疾患の診療体制は整いつつあります。また2022年には成人先天性心疾患専門医制度がスタートし、各修練施設で成人先天性心疾患の臨床トレーニングを受けた専門医が認定されることになりました。しかしながら、実際の診療現場をみると、循環器内科医が病態の把握や治療方針の決定に苦慮している状況を数多く伺います。単純な短絡疾患であっても成人期になると加齢に伴い弁逆流や不整脈の合併により心不全へ進行する場合があります。一方、重症であるにもかかわらず、小児期以降に専門施設での継続的診療が行われていないドロップアウト症例が相当数存在する現実が浮かび上がってきます。

これまで成人先天性心疾患のテキストは小児循環器の先生が中心となって執筆され、心臓形態学を主体に疾患の血行動態的特徴を解説することに主体がおかれてきました。このため、どうしても小児期の治療方針と成人期の問題が混在し、循環器内科医にとって大切な論点の記載が不十分の感がありました。

今回、思い切ってすべての領域を実際の成人先天性心疾患診療に携わっておられる循環器内科医に担当していただき、循環器内科の医師からみた、実際の成人先天性心疾患領域の問題点に集約して解説していただく企画としました。各稿の執筆者には、成人期に出現する問題点とその対策に主眼をおいた解説をお願いしました。今後ますます日常診療で重要性が増すことが予想される成人先天性心疾患領域に、最新の情報をお届けしたいと思います。